

# Economics



**岩手大学**  
IWATE UNIVERSITY

**Faculty of Humanities  
and Social Sciences**

**IWATE UNIVERSITY**

皆さんこんにちは！

まず初めに、オープンキャンパスが中止となり、遠隔での開催になったことに対して皆さんに会うことができないことを残念に思います。私自身も3年前、岩手大学のオープンキャンパスに参加したことで感動と憧れを抱き、「絶対にこの大学に行ってやる！」と決意をしたことを今でも覚えています。高校生の皆さんにもぜひこの目でキャンパスを見てもらいこの大学に触れてほしかったです。

中止になったことに伴い、オンラインで何とかしてこの大学の魅力を伝えられないかと思い、今回様々な方々のご協力を得てこの冊子を作成しました。高校生の皆さんには今後の進路決定に少しでも役立てていただければ嬉しいです。

岩手大学人文社会科学部地域政策課程には「法学」「経済学」「環境学」という3つの学びの場があり、総合的に学びながら3年生になってから本格的にこの3つから1つを選択し、学んでいくこととなります。

今回はこの中から「経済学」のコースを取り上げて、皆さんにお伝えしていこうと思います。

経済学系には、「農業経済論」「理論経済学」「政治経済学」「経営学」に加えて、現在はオンラインで行われている「財政学」、と幅広い分野から専門的に学ぶことができます。各先生方や学生がこのコースでどのような取り組みをしているのかぜひ見てみてください。

最後になりますが私は高校生のとき、「この勉強は何に役に立つんだろう…」思っていました。しかし、大学に入学して学ぶ際、高校のときの勉強はかなり重要となり基礎となります。今の学びは必ず無駄にはなりません！受験は厳しいものですが自分を見失わず、今やっていることは将来必活かされることなので、ぜひ自信をもって頑張ってください。

皆さんと来年、キャンパスで会えることを心から祈っています。

ようこそ2021年岩手大学オープンキャンパスへ

岩手大学経済学系有志一同

# 目次

プログラム紹介  
・・・4

## ゼミ紹介

●農業経済論(横山先生)  
・・・8

●理論経済学(杭田先生)  
・・・11

●政治経済学(齊藤先生)  
・・・15

●経営学(渡部先生)  
・・・17

学生紹介  
・・・21

人文社会科学部  
オープンキャンパス  
受付・総合案内





手大学

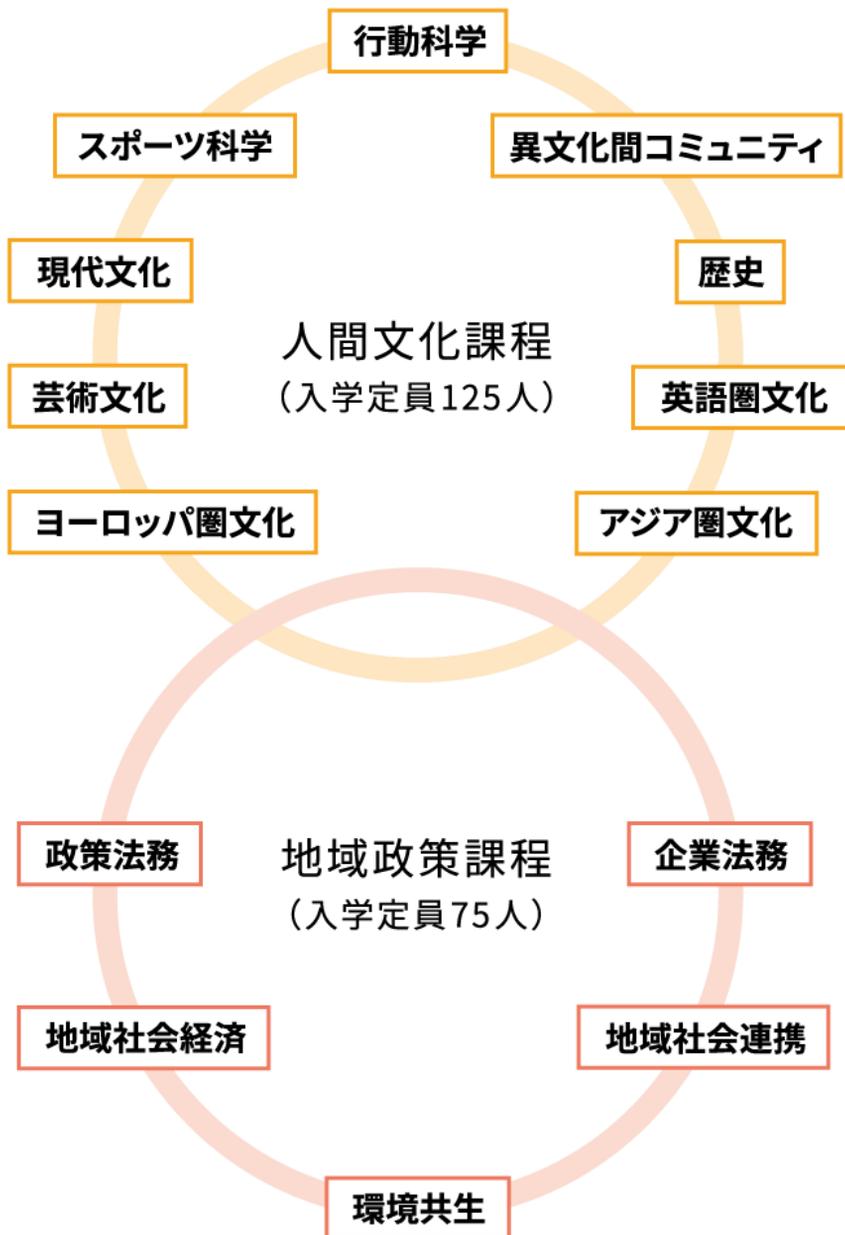
バグの駆除  
進入禁止

Hand University  
Information Kiosk

Hand University  
Information Kiosk

Hand University  
Street Lamp

# 経済系プログラム紹介



人文社会科学部にはたくさんのプログラムがあります。  
その中から今日は「地域社会連携」「地域社会経済」  
の2つについてお話しします！

# 地域社会連携プログラム

〈キーワード〉 経済学 地域社会 産業 法学 環境学

〈養成人材像〉 経済学を基礎として、法学や環境学の視点を取り入れながら地域社会の現場で生じている生産・生活をめぐる諸問題を学修することによって、地域が抱える諸問題を総合的な視点から解決できる人材を育成する。

〈卒業論文のタイトル例〉

- 地域銀行におけるリレーションバンキングとコンサルティング業務
- 女性正規雇用労働者の継続的キャリア形成への展望
- 最低賃金制度が抱える諸問題の理論的検討—「労働力の価値」の観点から—
- 生産者と消費者との産直による地域農業活性化の取り組み

地域社会の諸問題を企業経営や福祉行政、環境共生の視点から学びます。経済学だけではなく、法学や環境についても専門的に学び、地域社会マネジメントを行える人材を養成します。経済学だけでなく、広い学問分野から地域の在り方について考えたい人におすすめです！

# 地域社会経済プログラム

〈キーワード〉 経済学 地域経済 財政学 経営学 復興

〈養成人材像〉 経済学の基礎的学修とともに、地域・地方自治に係る基本的な制度・政策を学ぶことによって、地域経済の創生・再生を担う人材を育成する。

〈卒業論文のタイトル例〉

- 派遣労働の現状と課題 –ディーセント・ワークから考察する規制の在り方–
- 過疎問題の今日の実態と内発的発展論のあり方
- 日本における社会的バランス論の今日的意義
- 地域格差の要因分析 –企業立地と所得移転の構図–

地域社会連携プログラムとは違い、こちらは経済学の分野を特に深く学びます。地域を主なフィールドとすることで地域経済に関する理論と政策を学び、今後の地域の在り方を考えます。経済学を特に専門的に学びたい人はオススメです！

# 経済系ゼミ紹介

人文社会科学部

Faculty of Humanities and Social Sciences

# 農業経済論ゼミ



担当教員：横山英信先生  
専門分野：農業経済論

(1)先生がご専門とされている学問分野とはどのような学問なのでしょう？

「農業経済論」は「経済学」の一分野であるとともに「農学」の一分野でもあります。それゆえ、「農業経済論」あるいはこれに類する科目は経済学系の学部にも農学系の学部にも配置されています。これは他の経済関係科目に見られない特徴です。私自身、学部時代は経済学部でしたが、大学院は農学研究科(農学部の大学院)に進みました。

農業は作物・家畜などの生物相手の産業なので、その生産に当たっては生物の生理を勘案することが求められます。また、作物生産に当たっては土地が決定的な役割を果たします(田や畑は2階建て・3階建てにはできません)。また、工業・商業・サービス業の主たる生産主体が「企業」であるのに対して、農業の主たる生産主体は現在でも「農家」=家族経営です。このように農業には他の産業と異なる特徴が多々あります。

「農業経済論」はこのような農業の特徴を踏まえて、農業・食料・農村、さらには環境を含んだ広範囲の問題を扱う学問です。農業の生産性の向上、農産物の流通、農産物の国際貿易、食の安全性問題、農村の活性化、環境保全型農業、農業政策のあり方等々がその研究対象になります。

(2) 現在、先生がご専門とされている研究について簡単に教えてください。

私の専門の研究は大きく次の2つです。

- ① 米政策・麦政策を中心とした戦後日本の農産物価格政策の展開動向とその性格に関する研究。
- ② 戦後日本の農地制度に関する経済学的・法学的研究。

いずれも、今後の日本農業を考える上で重要な意味を持つ研究と自負しています。

(3) 先生が大学で担当されている専門科目の主な授業について教えてください。また、ゼミや授業をするにあたって心がけていることがあったら教えてください。

講義科目の「農業経済論Ⅰ・Ⅱ」と、演習科目(=ゼミ)の「農業経済論演習Ⅰ・Ⅱ」が主たる担当科目です。

「農業経済論Ⅰ・Ⅱ」の授業は、私も執筆陣に加わった農業経済論のテキストをベースに、補足の資料も用いながら行っています。前期が「農業経済論Ⅰ」、後期が「農業経済論Ⅱ」です。前期では現代の世界と日本における食料問題(需給問題、安全性問題、食品表示問題など)と日本の農業政策について、後期では現代日本農業の各部門(米・麦などの穀物、園芸、工芸作物、畜産など)が抱える諸問題と農村地域の活性化に関する問題を扱っています。授業では、単に食料・農業をめぐる現状を話すのではなく、それがどのような社会的・経済的背景の下で生じたのか、またそこで生じている事象は経済学的にはどのように説明できるのか、という点に力点を置いて解説しています。

「農業経済論演習Ⅰ・Ⅱ」は3年次の前期・後期に配置されています。ゼミは農業経済・地域経済に関する文献をテキストにしてゼミ生にローテーションで報告・コメントを行ってもらい、そこで出された問題について突っ込んだ討論・意見交換を行い、問題を掘り下げ、認識を深めます。また、前期の9月には農業の現場を肌身で感じてもらうために、奥州市の農家さんに泊まり込み、農作業のお手伝いをしながら農家の方々と交流する「農村ワーキングホリデー」を行っています。

#### (4)最後に、高校生に向けてメッセージをお願いします！

他の学問分野と切り離されて独自に存在する学問分野はありません。農業経済論の研究を行うにあたっては、経済学全般に加えて、法律学、政治学、社会学といった他の社会科学分野、さらには農業に関連する自然科学分野の基本的な知識・考え方を修得していることが必要です。

そのような知識・修得の場として大学の教養教育科目がありますが、その基礎となるのが高校の授業です。基礎がないところでの応用・発展はありえません。ともすれば「大学受験のための知識の詰め込み」と批判されることが多い高校教育ですが、そこに改善が必要な点はあるにしても、受験のためであれ何であれ、幅広い知識を身につけることは、大学での勉学を含めて、皆さんの人生にとっての大きな糧となります。

その意味でも、皆さんには高校では目指す大学の受験科目以外の科目についてもしっかりと勉強してほしいと思います。

# 理論経済学ゼミ

担当教員：杭田俊之先生  
専門分野：理論経済学



(1)先生がご専門とされている学問分野とはどのような学問なの  
でしょうか？

私が大学生だった1980年代後半は、アメリカ流の経済学が影響を強めていた時代でした。主流の経済学というのは、市場均衡の分析が典型であったように、物事は均衡に落ち着くといった議論になります。ところが、私が入った京都大学の経済学部には異端の議論をされる先生が大勢いらして、均衡よりもむしろ「経済の変化」という扱いにくいテーマを主題にしている点がすごく魅力的でした。

続く1990年代の動きとしては、それまで異端の経済学とされていた進化経済学でしたが研究者の間で学問的アイデンティティーの確立に向けた取り組みが始まりました。そのキーワードの一つに「経済の進化」があります。市場は競争の場ですから、進化論でいう生存競争や淘汰といったイメージが経済学の中にももともとあったと言ってもよいでしょう。進化というフレーズは何人もの学者が使っていて、例えばマーシャル、シュンペーターやヴェブレンなどは100年以上も前から議論していたといえます。進化経済学は簡単に言うと次の3点にまとめられます

まず着目する社会の変化は時間の中で推移するものであること。それは必ずしも進歩と限らず、変化の結果は良いとも悪いとも言えません。

2点目は、咲いた花を再び蕾に戻せないように社会の変化は元に戻せない、つまり不可逆であるということ。均衡の議論のように元に戻りうるような状況を考える変化(可逆性)に対し、それを否定したということになります。

3点目は発展の中で変異が生じるということ。花や家畜に品種改良があるように、経済にも新しい製品・技術の出現により社会にインパクトを与える変異が現れます。新しいことは予測不能ですので

どうしても扱いづらいものであるわけですが、変異＝革新現象が現れることで社会が変わってきたのも事実です。そうした社会の動きを見て考えていくのがこの分野の特徴だと思います。



(2) 現在、先生がご専門とされている研究について簡単に教えてください。

私の専門の研究は大きく次の2つです。

① 資本主義の金融化といった事態を、ソースタイン・ヴェブレンの制度主義経済学的観点から株式会社制度の進化として明らかにする研究。

② 震災後の岩手三陸沿岸地域をフィールドとする水産業の復興と持続性問題、またそれに関連して人口減少が進む地域コミュニティの持続可能性問題の検討を進化経済学と地域経済学からアプローチすること。



社会全体を「鳥の眼」で俯瞰する研究と現場(フィールド)の問題を「虫の眼」で掘り起こす研究によって、人間のための経済を取り戻すことが目的です。

(3)先生が大学で担当されている専門科目の主な授業について教えてください。

また、ゼミや授業をするにあたって心がけていることがあったら教えてください。

講義科目の「理論経済学Ⅰ・Ⅱ」と、演習科目(=ゼミ)の「理論経済学演習Ⅰ・Ⅱ」が主たる担当科目です。

「理論経済学Ⅰ・Ⅱ」の授業は、マクロ経済学のテキストをベースにして、鳥の眼のマクロ的視点から財・サービス市場、金融市場、労働市場の順に講義し、経済のしくみからGDPの決定、経済成長、財政政策、金融政策、雇用・失業問題などの問題を扱っています。私たちの日常の基盤となっている経済というものが生産・分配・支出の相互依存的関連の中でどのように動いているのか理解を深めるものです。講義では、問題イメージの導入から始めて、講義資料(レジュメ)とともに新聞記事・映像視聴・経済データなどを活用しています。



久慈どんこドッグキッチンカー

理論経済学演習Ⅰ・Ⅱ」では、マクロ経済学テキストの講読の他に地域経済学のテキストや資本主義論に関連する文献を輪読するとともに、地域課題調査に常時数件取り組んでいます。調査先は岩手の沿岸地域で養殖漁業の経営問題、漁村コミュニティの

抱える問題、また変わったところでは水産物活用のメニュー開発や魚食普及活動に取り組む都市もあります。さらに最近は内陸での小集落のコミュニティ機能維持の問題にも着手しています。このようにいわゆる「座学」と大学の外に出る「フィールド調査」を合わせることで、ゼミ生たちがより経済への実感をもち、行動力を高めるためのゼミ運営を行なっています。

#### (4)最後に、高校生に向けてメッセージをお願いします！

あえてメッセージを一言でいうと、「学びの喜びを大切にしてください」となります。

「学ぶ」＝「知る」ということは、知る対象、相手と「かかわる」ことを意味します。私の考えでは、かかわるということは互いに学びあい、自分だけでなく相手も変わる機会にもなっています。そして学びによる変化というものが前を向いたものであることを願うばかりです。高校までの学習は受験勉強を意識せざるをえないので、答えが用意されていることをいかにして習得し、完成させるかに傾きがちです。もちろん教科書の答えが日々変わっていくわけにはいかないのです。仕方のないことなのですが。

大学での学びに期待してもらいたいのは、「学び」と「かかわり」のなかで、答えのかたちはその時々成果であり、自分も相手も変わっていくためにそれをステップにして次々と新しい問いが生まれてくるということです。ここで「かかわり」といっているのは「コミュニケーション」のことなのですが、たとえ相手が書物であっても、読書という対話のなかで自分が変わるだけでなく、学問的知見のフロンティアをたとえ少しでも前に進める営為になります。経済学をはじめとする社会科学にはその向こうにひとの姿、生活があり、ひとびとや社会はかかわりのなかで変わっていきます。大学では新しく生まれる問いとその探求という醍醐味があることをぜひ体験してほしいと思いますし、高校までの学習はそのための礎になりますから、高校ではいま目の前にある学びの機会を大切に「虫の眼」で取り組むとともに、大学への入学がゴールではなく、その先を見据える「鳥の眼」で学びの意義を見据えてほしいと思います。

# 政治経済学ゼミ



担当教員：齊藤彰一先生  
専門分野：政治経済学

## 1 先生がご専門とされている学問分野はどのような学問なのでしょう か。

経済理論と経済思想です。経済理論とは現実の日本経済や世界経済の動向を研究する分野です。ただし動向を研究するといっても手法があります。経済理論学会では、おもにマルクス経済学、ポスト・ケインジアンを経済理論を使って、実証分析を行います。もう一つは経済思想です。これはいわば経済学の歴史という分野になります。過去の人々が、どのような経済理論を考えてきたかという問題を扱っています。

## 2 現在、先生がご専門とされている研究について教えてください。

私が研究しているのはマルクスの『資本論』です。しかし『資本論』といってもいろいろなバージョンがあります。ドイツ語初版、ドイツ語第二版、フランス語版、ドイツ語第3版およびドイツ語第4版です。これらの内容はそれぞれ微妙に違っており、その異同を研究するのがおもな仕事です。いまはマルクスによる『資本論』の最終決定版を考察しています。マルクスはドイツ語第二版とフランス語版を組み合わせて第3版をつくらうとしたのですが、エンゲルスが恣意的な編集をしてしまい、現行の『資本論』はマルクスの意図したものではありません。したがって、マルクスが考えたとおりの『資本論』を考察し、研究するのが専門となっています。

### 3 先生が大学で担当されている専門科目の授業について教えてください。

私が専門の授業で教えているのはおもに「政治経済学Ⅰ・Ⅱ」と「経済思想」です。「政治経済学」ではマルクスの『資本論』の第1巻の内容を教えています。「経済思想」では、過去の経済学の歴史を教えています。それこそ、古代ギリシャやキリスト教、ユダヤ教、イスラム教の教えから始まって、近現代の経済学者であるアダム・スミスやリカードウ、マルクス、ケインズ、シュムペーターや現代のもろもろの経済理論について教えています。古代から現代にかけて、経済というものを人々がどう捉え、考えて、発達させてきたかという点をおもに教えています。

### 4 最後に高校生に向けてメッセージをお願いします。

大学での勉強というものは、高校までの勉強とはちがって、授業で教えられるもの以上のことを、自分で主体的に勉強してゆかなければなりません。そして卒業論文を書く能力を身に着けることとなります。しかし、基礎となるのはやはり中学・高校までに至る基礎的な勉強です。とくに社会科、日本史・世界史・地理・公民をしっかりと勉強しておくことが大事です。社会科学を勉強する基礎は高校までの社会科であると言ってよいでしょう。それに付け加えて、数学や外国語、理科の勉強が必要でしょう。まずは教科書を何度も読み、基礎となる知識をたくわえることが大事だと思います。現在の高校での勉強はけっして無駄にはなりませんから、しっかりと励むことが大事です。では大学の講義室でお待ちしています。

# 経営学ゼミ

担当教員：渡部あさみ先生  
専門分野：経営学



(1)先生がご専門とされている学問分野とはどのような学問なのでしょう  
うか？

私の専門は、経営学、とりわけ人的資源管理論です。経営学は、企業、および企業行動を主たる対象とした学問です。企業には、四つの資源があると言われていています。それは、ヒト・モノ・カネ・情報です。私が主たる対象としているのは、その四つの資源のうちのヒトです。このヒトという資源をどう見るのか。企業にとっての資源である“ヒト”は、企業の四つのうちで最も複雑な資源ではないでしょうか。なぜなら、企業におけるヒトの「働き方」・「働かせ方」ということを考えると、ヒトという資源は、その日の気分や体調、仕事や家庭の状況によって、顕在化する力が異なるからです。このヒトという資源について、いかに効率的に活用することができるのか、どうすればたくさんの仕事を効率よくさせることができるのか、これが企業の人的資源管理にとって大きな課題です。一方、複雑な資源であるヒトをめぐるには様々な問題が起きています。それは、企業における「働き方」・「働かせ方」の結果として起きる労働問題です。労働問題は様々ありますが、それらの労働問題はいかに発生しているのか、企業の人的資源管理との関係性に目を向けることも重要な研究テーマとなっています。

(2) 現在、先生がご専門とされている研究について簡単に教えてください。

私の主たる研究テーマは、先進諸国における長時間労働です。この問題をテーマに研究をしようと決めたのは大学生の時ですが、幼い時から、なぜ日本の労働者はあくせく、しかも、長時間働くのか不思議に思っていました。先進国である日本において、なぜ、過労死・過労自殺に至るまでの長時間労働が起きるのか。しかも、長時間労働に従事する労働者の多くは、正社員のホワイトカラー労働者であり、それなりに恵まれた環境にいるはずである労働者であるという印象があったのにも関わらず、なぜ死ぬまで働かなくてはいけないのだろうか——。こうした問題意識のもと、研究活動を始めました。大学院生のときに、ある講義のなかで、長時間労働の末に自殺をした方々の遺書を見せていただく機会がありました。震える手で、最後の最後まで自分自身を責めて、お亡くなりになった方々の心の叫びのようなものに触れたことは、私の研究生生活に大きな影響を与えました。長時間労働を生み出すような企業における「働き方」・「働かせ方」は、果たして人間らしい「働き方」・「働かせ方」(持続可能な開発目標(SDGs)のうちの一つである「ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)」)とは、決して言えないと考えています。そうした考えをもとに、日本の労働時間をいかにして適正化していくことができるのかという関心のもと、働き方改革に取り組む企業への聞き取り調査や、国内外における人的資源管理と労働時間管理に関するアンケート調査をもとに、考察を深めています。

(3) 先生が大学で担当されている専門科目の主な授業について教えてください。

また、ゼミや授業をするにあたって心がけていることがあったら教えてください。

私が主に担当している講義は、「経営学総論Ⅰ・Ⅱ」です。これは、経営学の基礎に当たるものです。経営学といってもその領域は決して狭くはありません。私の専門であるヒトに関する領域においても、人的資源管理論、経営組織論、組織行動論、リーダーシップ論、モチベーション論など多岐に渡ります。

このほか、企業論、コーポレート・ガバナンス論、国際経営論、マーケティング論、中小企業論、非営利組織論、公共経営論、環境経営論、経営情報論等、その学問領域は様々です。私が担当している「経営学総論Ⅰ・Ⅱ」では、経営学と呼ばれる領域において、どのような学問領域があるのか、また、それぞれの領域においてどのような問題が取り扱われているのかについて、基礎的理論を学びます。また、講義では、その講義内で学んだ基礎的理論をもとに、私たちが生きる社会において起きている問題について考察をする目的のもと、新聞記事を読むようにしています。

その際に、私が、学生自身に気づいて欲しいと考えているのは、私たちが住む社会において、企業と私たちの関わり方にいかなる論点が存在しているかということです。企業活動は、この社会で生きる人々の衣・食・住のすべてに関わっています。私たちと企業活動の関りは、非常に多面的です。私たちは、ある時には、企業が提供する商品・サービスを購入する消費者であり、またある時には、企業で働く労働者にもなります。企業活動と私たちの生活は、密接に関わり合っているからこそ、そこに存在する問題に気が付かずに過ごしていることが多々あるのです。

「経営学総論Ⅰ・Ⅱ」をさらに深めていく「経営学演習」においては、日々の生活において気付かずに過ごしていたことに気づくということを目的に、文献研究を行っています。文献研究を通じ、この社会に存在する様々な問題について、経営学を主軸とした視点に基づき議論し、考察を深めています。また、ゼミ生それぞれの研究テーマについて研究報告をし、ゼミ内での議論を通じて、卒業論文をまとめています。ゼミ生の研究テーマは、長時間労働をはじめ、キャリアやモチベーションに関する問題、女性労働、非正規雇用、障害者などに関する労働問題、中小企業を取り巻く問題、マーケティング、企業の社会的責任に関するものなど様々です。さらに、経営学演習では、企業経営の実態を学ぶ機会を大切にしており、企業へのインタビュー調査を実施しています。2021年度からは、大学生を対象とした入職前における労働に対する意識調査も実施する予定です。以上の活動を通じ、「経営学演習」では、企業・企業活動に焦点を当て、「経営学を通じて社会と対話する」姿勢を大切にしながら、理論と実態を往復する力を養っています。

#### (4)最後に、高校生に向けてメッセージをお願いします！

日々の生活において、不思議に思うことはありますか。日本における当たり前について、「なぜ、こうなのだろうか？」と思うことがあったら、ぜひ国際比較をしてみてください。日本における当たり前は、もしかすると、日本国外では非常識なことかもしれません。また、なぜそのようなことが起きるのか、その発生要因を調べていくことは簡単なことではありませんが、とてもわくわくすることもあります。「なぜだろう？」という知的探求心を大切に、素直な気持ちでご自身の問題意識と向き合ってください。皆さんの知的好奇心に触れながら、共に学ぶことを心より楽しみにしています。



今回は4人の先生方のゼミを紹介しました  
人文社会科学部地域政策課程には様々な分野の先生がいます。きっと自分が勉強したい分野がここでは見つかると思います！

この他にも現在、東京経済大学の佐藤一光先生が財政学ゼミを行っています(オンラインでの開講)これから紹介する学生紹介のコーナーにも財政学ゼミの学生がいるのでぜひ、チェックしてみてください！



ここからは経済系ゼミに所属している学生がどのような勉強や活動をしているのかを紹介します。高校生の皆さんはぜひ、先輩の取り組みを参考にしてみてください！



## 高橋 花さん

人文社会科学部地域政策課程  
2019年度入学 3年生  
財政学ゼミ所属

主専修:地域経済連携P  
副専修:政策法務P  
岩手県立黒沢尻北高校出身



○ゼミではどのようなことを勉強しているのですか？

財政学は1)政府の経済の現状と理想

2)経済に対する政治的なコントロールの現状と理想について考える学問です。経済学の一分野ですが、経済学の中でも特に社会全体のニーズや公共福祉に焦点をあてている分野だと思います！ゼミではゼミ生の興味関心に応じてディベートのテーマを決めています。毎週行われるディベートは、雇用や社会保障、地域産業と幅が広いです。夏休みに他大学と合同でディベート大会があるので、今はそれに向けてみんなで論文を書いています！

○高橋さんは岩手大学学内カンパニー「岩大クラフトビール部」で活動をされていますがどのようなことをやっているのか教えてほしいです！

ビール部は「安心して飲めるビール」と「ビールを飲むだけで経済的にも環境的にも豊かな社会になる仕組み」を作る事をビジョンに掲げて活動しています！ビールは国内で最も消費されているアルコール飲料ですが、原材料の殆どは輸入品で賄われているため国内で自給する事ができていません。私たちはその状況を解決するために、地元農家と共同で麦を栽培し、県内の醸造所で「完全岩手県産ビール」を作るというプロジェクトを進めています。また、ビールを造る際に発生するビール粕を再利用した商品開発を行うなど環境問題にも注目し、様々な観点からビールに関する社会問題を扱っています！他の学生団体と共同したり、県内企業さんと提携したりと活動範囲がどんどん広がっており、とてもアグレッシブです。

○これらの活動をするとき、経済学の勉強が活かされたと感じるときはどんなときですか？

ゼミの先生の紹介でビール部を先輩方から引き継いだ時に団体のビジョンを一度考え直しました。もしビールの原材料が国内で生産されていたら。もし人々が海外由来の大量生産ビールではなく、国内産のビールを飲むようになったら。地産地消が進み雇用が生まれ、地域経済はより良くなるのでは無いか。そんな風に考える事ができたのは経済学を学んでいたからです。それからその理念はずっと活動の中心に掲げています。ビールのように、私たちが普段何気なく食べている物全てに生産者がいて、それを生み出している経済構造があります。日常をお金という側面から見る事ができるのが経済学の面白さだと思います！

○ありがとうございます！最後に高校生へのメッセージをお願いします！

私も進路選択にとっても悩み、実際に岩手大学に来ると決めたのは入学手続きの締め切り直前でした。でも、大学では自分が思っている以上に何でもできるし、そのための環境はあちこちに転がっています。だから、どこに行くかよりもそこで何をすることが大切です。その上であえて地域政策課程のいいところを説明すると、法学、社会学、経済学、環境など様々な分野から社会問題を考える事ができることだと思います。社会問題は様々な面を持っているため、一つの分野だけから捉える事は難しいです。自分の専門じゃないし…と思って履修した授業も、後々社会を考える時に必ず財産になります！法律、経済、環境に興味がある人は勿論ですが、社会そのものについて知りたいという人にもおすすめです。



## 谷崎 公紀さん

人文社会科学部地域政策課程  
2018年度入学 4年生  
経営学ゼミ所属

主専修 地域社会連携プログラム  
副専修 現代文化プログラム  
岩手県立久慈高校出身

私は地域政策課程で経営学ゼミに所属しています。知的障害者の雇用について、株式会社がどのように影響を与えていくのかを研究しています。障害のある人たちのイメージを変えるべく活動する企業でのインターンシップへの参加をきっかけにこの研究テーマを設定し、研究に励んでいます。大学の外での活動を学問として考えられるのは大学生だからこそできることだと感じています。

課外活動では「いわてi-Sakeプロジェクト」という活動に取り組んでいます。若い人が日本酒と触れるきっかけを作り、日本酒に親しみを持ってもらうことを目的としたプロジェクトです。地域の農家さん、酒蔵さんにご協力いただきながら、酒米の栽培から醸造、販売プロデュースまで学生が行うプロジェクトです。日本酒をきっかけに地域の人や文化に触れながら活動しています。高校まで地域や社会と触れるきっかけがない人が多いと思います。高校生でも社会人でもできない「大学生だからできること」は何か、日々考えながら楽しく活動しています。

大学生になるとこれまでとは違い、責任を持って自分の判断で行動することが求められます。ただ、自分で判断した行動が結果として他人や地域に良い影響を与えられることができます。自己判断で行動する楽しさを知るためにも学外の活動にも励んでいけたら楽しさが増えるのではないのでしょうか。

柴田 康正さん

人文社会科学部地域政策課程  
2019年度入学 3年生  
財政学ゼミ所属

主専修:地域経済連携P  
副専修:企業法務P  
岩手県立福岡高等学校



・ゼミではどのようなことを学んでいますか？

財政学ゼミでは、実際に日本が抱えている財政に関する諸問題や論文をテーマに、賛成班と反対班に分かれ双方の立場からディベートを行っています。ディベートに向けて各班では類似する諸問題や関連する論文を調べ、レジュメを用意し互いに主張し合います。主張し合うと言ってもディベートですから、ただ否定し合うのではなくテーマに対してより良くなる方向へと議論を進めていきます。

ただ財政について学ぶのではなく、レジュメを作りディベートを繰り返す中で非常に多くのことを学べます

・柴田さんは現在、学外活動として「盛岡どんぱ」という団体の学生チーム副リーダーを務めていると聞きました。柴田さんはどのようなことをしているのですか？

私はいま、2021年9月25日に盛岡市にある高松の池(公園)で行われる盛岡どんぱという花火大会の開催に向けて、企画・運営に携わっています。盛岡どんぱでは、来場者に一生心に残る「感動の1日」を届けるために、盛岡市の若手起業家と大学生がタッグを組み、盛岡市最大級の花火大会を企画しています。

一日中楽しめるイベントとして、夜の花火だけではなく昼も楽しめるイベントを各種企画しています。

大学生は主にこの昼間イベントの企画をしていて、昨年の秋から活動を始め0からイベントを企画しました。ストリートライブやさんさ、来場者に対するサプライズイベントなど工夫を凝らし、感動させるためのイベントを企画しています。そのほかにも、花火大会全体運営やSNS運営にも携わっています。



興味がある方は「盛岡どんぼ」で検索、ぜひ公式サイト・公式Instagramを覗いてみてください。

**・かなり本格的なイベントですね…！この活動をするにあたってゼミや経済学の分野が活かされることはありますか？**

この活動の中で、財政学ゼミで行っているディベートの成果が生きています。0からイベントを企画する中で、何度もミーティングを重ねてより良いものを作り上げていきます。互いの意見を否定し合うだけでなく、補い合い良くしていく活動は今後の社会に出てからの活動にも生きてくると思っています。

**・ありがとうございます 最後に高校生にメッセージをお願いします！**

学校で学べることはとても大切です。ですが学校の外には、学校では学べないこと、経験できないことで溢れています。現在は新型コロナウイルスの影響で、課外活動なども制限されていると思います。そんな逆境の中で大学入学に向けて入試活動に取り組むみなさんはとても強いです。今後もさまざまなことにチャレンジしていき、共に活動していけることを期待しています。

本日紹介した先輩たちが  
取り組んでいる団体の  
SNSです。  
ぜひ、チェックしてみてください  
ください！！

岩大クラフトビール部  
Twitter: [@iwatebeer](https://twitter.com/iwatebeer)

i-Sakeプロジェクト  
Twitter: [@i\\_Sake\\_iwate](https://twitter.com/i_Sake_iwate)

盛岡どんぱ  
Twitter: [@donpa\\_0821](https://twitter.com/donpa_0821)  
Instagram: [donpa.morioka](https://www.instagram.com/donpa.morioka)



制作：経済学系有志一同



